

平成 29 年 7 月市長定例記者会見

日 時：平成 29 年 6 月 30 日（金） 午後 1 時 30 分～ 2 時

場 所：射水市役所会議室 302

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞、北日本放送、チューリップテレビ、射水ケーブルネットワーク、ホットライン K O S U G I、庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、人事課 給与係長、射水市消防本部 総務課長、地域振興・文化課長、政策推進課長、未来創造課長（司会）

○質疑応答の概要

Q 1 . プレミアムフライデーについて、射水市内での取組みをどうみるか。
また、イクボス宣言について、市長の宣言に込めた思いを聞かせてほしい。

A 1 . プレミアムフライデーについて、射水市においては、特に具体的な推進策や促進策、啓発活動などを行ってきていない。普段から、できるだけ勤務時間内で仕事を終わらせるように効率的かつ計画的な仕事の進め方について、意識の啓発を行っている。そのような中で職員一人ひとりがプレミアムフライデーを意識し、定時に帰るよう取り組められればよいと思う。また、国のこういった取組にもそれぞれ個人の中で参加を意識しながら、早出遅出勤務なども活用し、個人の充実したワークライフバランスに生かしてもらいたい。

また、イクボス宣言について、働き方改革や生産性の向上が今求められている。まずは、市内でいろいろな企業でもこのような意識を高めて取組が広がることを期待したい。そのためにも、まずは市役所において取り組み、実際の効果や成果をしっかりと打ち出していきたいと考えている。（市長）

Q 2 . 大門高校が検討の対象となっているが、県立高校の再編についてどう進めて行こうと考えているか。

A 2 . これまでの高校再編の議論は、1 学年が 4 学級に満たない学校を対象としており、規模の話ばかりが先行し、本来考えなければいけない「子

どもたちにとってより良い教育環境」を実現するために、どのような環境や学校の配置が必要かという議論がまだ足りないのではないかと心配している。小規模ながらも特色ある取組をしている学校もたくさんあり、大門高校でも環境について学生が熱心に取り組んでいる。特色ある取組を行う学校の良い面も見ていただきながら、子どもたちが学びたいと思う高等教育をどう実現していくかという丁寧な議論をしてほしいと感じている。(市長)

Q 2 - 2 . 4 月には、統合について理解を示す見解だったが、それは統合してもよいということか。

A 2 - 2 . 子どもたちにとってより良い教育環境を考えたときに、学級の規模が小さいことによって、例えば部活や学校活動が制限されるなどのデメリットもある。そういったことも含めて、ある程度の規模の学校を作っていくことも必要であると思っている。ただし、大事なのは子どもたちが進学を希望する学校をどのように設定し、バランスよく配置するかである。地域の中では、学校が無くなることによって通学の負担が増えるようなところもあるかもしれない。そういった所も考えた検討やビジョンを期待したいと思っている。(市長)

Q 2 - 3 . 議論の結果、統合することになればやむを得ないということか。

A 2 - 3 . 大事なのは子どもたちのより良い教育環境だと思っている。県が示している推定によると、このままの学校数では、全ての学校が小・中規模となってしまうが、それはいかななものかと思う。このようなことを念頭に置いた統廃合も必要だと思う。ただ、小規模というだけで中身を見ずに対象としてしまうのはいかななものかと思っている。総合的に勘案していただき、一か所に集中せずバランス良く配置するのが理想であると思う。(市長)